

虫眼鏡の扱い方

事故防止のために

関連単元

1.身近なしぜんのかんさつ

- 植物の育ちとつくり
- 自由研究でかけようしぜんの中へ
- いろいろなこん虫のかんさつ
- 植物の一生

1.春の自然(4年)

- 夏の自然
- 秋の自然
- 冬の自然

※4年、5年、6年の観察でも使用する。

1

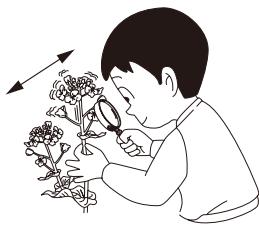
児童へ渡す前の点検

- ①レンズがフレームからはずれそうになつてないか。
- ②フレームの縁が欠けてないか。
- ③レンズが割れたりひびが入っていたりしていないか。
⇨不都合なものがあれば、使わないで廃棄する。

2

使い方の指導

物を見るときの使い方

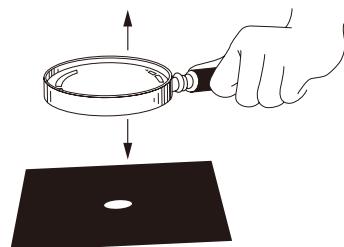


- ・目の近くで虫めがねを支え、見たいものを動かして、はつきり見えるところで止める。



- ・見たいものが動かせないときは、体を近づけてみる。

日光を集めるときの使い方



- ・上下に動かして、距離を調整する。

3

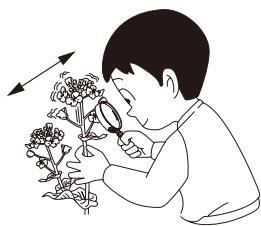
注意点

- ・虫めがねで太陽を絶対に見ない。
⇨目をいためて、失明する危険性がある。
- ・虫めがねで日光を集めて人の体や服に当てる。
⇨やけどをしたり、服が焦げて穴があく。
- ・むやみに日光を集めて物に当てる。
⇨物を焦がし、発火することもある。
- ・日光を集めて温度計の液だめに当てる。
⇨温度計の液だめが急激にあたためられ、沸騰して危険な状態になる。
- ・日光の当たる所に置いておかない。
⇨置く場所によっては、集光作用が起り、発火するおそれもある。
- ・学習が終了した後、貸し出したときの数が返却されているか、レンズが割れていないか、ひびが入っていないか、汚れていないか等を確認する。
⇨虫めがねの回収は必ずする。
⇨割れたりひびが入ったりしたものは廃棄する。
⇨汚れているものは、柔らかい布などを使ってきれいにする。
- ・屋外で使用した後は、レンズに砂塵がついていないか確認する。
⇨砂塵がついていたままふきとるとレンズに傷をつけるので、砂塵をカメラ用のレンズプロアなどで吹き飛ばした後、柔らかい布などできれいにする。

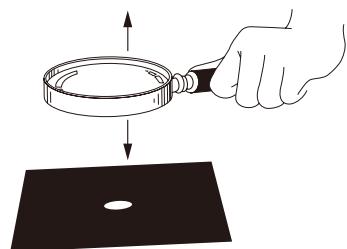
虫めがねのあつかい方

● 使い方

物を見るとき

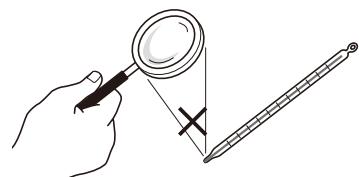
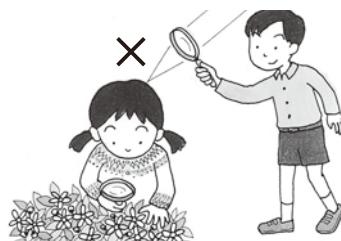
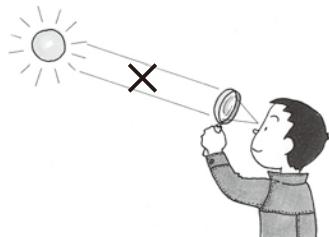


日光を集めるとき

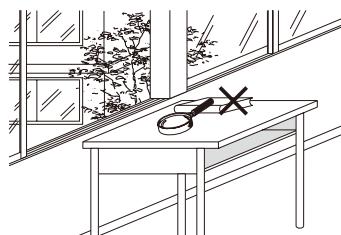
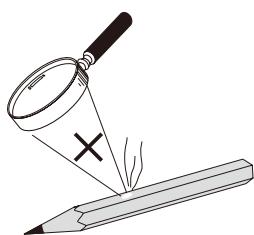


- ・目の近くで虫めがねをささえ、見たいものを動かして、はっきり見えるところで止める。
- ・見たいものが動かせないとときは、体を近づけてみる。
- ・虫めがねを上下に動かして、紙の間のきよりを変える。

● 気をつけること



- ・目をいためるので、ぜったいに太陽を見ない。
- ・日光を集めて人の体やふくに当てない。
- ・日光を集めて、温度計のえきだめに当てない。



- ・むやみに日光を集めてものに当てない。
- ・日光の当たる所においておかない。
⇒ おく場所によっては日光が集まり発火することがある。
- ・レンズにきずをつけない。
⇒ レンズに細かいすななどがついたときは、ふきとるとかえってレンズをきずつけるので、ふきとばす。